

クォーターレポート（6月・9月・12月・3月の年4回発行）

気仙沼・南三陸だより

第22号 平成29年9月

発行：気仙沼地方振興事務所



気仙沼管内の宮城県公所が取り組んだ事業や催事などを四半期ごとに紹介します。

◆◆ 主な内容 ◆◆

- 気仙沼高等技術専門学校：平成29年度第1回オープンキャンパスを開催しました
- 本吉農業改良普及センター：「宮城・岩手県境3普及センター情報交換会」が開催されました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 農林振興部：米の食味レベルアップ研修会を開催しました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 南三陸支所：清水(1)地区農地海岸復旧工事「L1 堤防」が完成しました
- 気仙沼地方振興事務所 水産漁港部：新たな青年漁業士が認定されました ほか
- 気仙沼地方振興事務所 地方振興部：岩手県沿岸広域振興局との意見交換会を開催しました ほか

平成29年度第1回オープンキャンパスを開催しました (気仙沼高等技術専門学校)

6月18日、当校において高校生や一般の方々を対象に、第1回オープンキャンパスを開催しました。

このオープンキャンパスは、身近に技術を学べて就職に有利な資格が取得できる公共の職業訓練校としてのPRを目的に、毎年開催しているものです。

当日は、42人の来校があり、自動車整備科、オフィスビジネス科、溶接科の概要について説明を行うとともに、施設を見学していただきました。

また、学生がこの日のために準備をしていた各科の体験コーナーでは、自動車整備科においては、大型車のタイヤ交換やエンジンの組立、エアバック作動実験等を、オフィスビジネス科においてはパソコンを使用するのメッセージカードの作成を体験していただきました。

これらのほか、仙台高等技術専門学校で制作した「エコランカー」の展示や、「反射神経測定ゲーム」の体験コーナーを設け、ものづくりの楽しさを身近に感じていただきました。

第2回オープンキャンパスは、10月22日(日)に開催する予定です。皆さまの来校をお待ちしています。



自動車整備科



溶接科



オフィスビジネス科

「宮城・岩手県境3普及センター情報交換会」が開催されました (本吉農業改良普及センター)

7月27日、岩手県一関市川崎町・室根町を会場に、本吉農業改良普及センター、岩手県大船渡農業改良普及センター及び一関農業改良普及センターの県境3普及センター情報交換会が開催されました。

情報交換会は、営農状況が類似している各管内の農業生産状況や現地活動状況を互いに情報共有するため年1回実施しています。

現地事例として、一関市川崎町で花き(リンドウ、小ぎく)・野菜を主体に水稻を経営する農業生産法人、(株)いやさか農園を視察、その後各普及センターから現地指導活動事例を報告、情報交換を行いました。

普段触れることの少ない他県の事例・情報等を交換することは今後の活動に大変参考となるものでした。



いやさか農園の視察



情報交換の様子

大島特産果樹研究会による先進地視察研修が開催されました (本吉農業改良普及センター)

8月2日、大島特産果樹研究会(以下、研究会)による先進地視察研修が開催され、岩手県遠野市の『農事組合法人 宮守川上流生産組合』のブルーベリー園地を視察しました。

当日は非常に天気が良く、30℃近い気温の中、参加者はブルーベリーを摘み取りながら、園地の広さやブルーベリーの新梢の伸び具合に驚いていました。

その後、同法人が運営する農産物直売所『サンQふる郷市場』に移動し、代表理事組合長の浅沼氏より、ブルーベリーの栽植本数や果実の販売価格、施用している肥料、ブルーベリーの品種、せん定の大切さなどについて伺いました。

参加者は今冬のせん定に向けて意気込みをにじませていました。



宮守川上流生産組合の視察



組合長から説明を聞く様子

本吉地区農業士会情報交換会(現地視察研修会)が開催されました (本吉農業改良普及センター)

7月21日に本吉地区農業士会の情報交換会(現地視察研修会)が開催されました。

視察先は、気仙沼市杉の下工区で、今年5月に震災後初めてねぎの栽培を開始したシーサイドファーム波路上(はじかみ)株式会社の佐藤社長から「組織の概要」、「生産計画」、「施設等整備計画」、「ねぎの作付状況」について説明をいただきました。

参加した農業士からは、「農業生産法人設立に至った経緯」、「雇用状況・計画」、「今後の農地の利用計画」等について質問があり、活発な意見交換が行われ有意義な研修会となりました。



シーサイドファーム波路上を視察



情報交換の様子

米の食味レベルアップ研修会を開催しました～特A奪還を目指して～ (本吉農業改良普及センター・気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

日本穀物検定協会による平成28年産米の食味ランキングにおいて、県産ひとめぼれが「特A」から「A」に格下げとなった事態を受けて、宮城県米づくり推進本部では、ひとめぼれを含めた県産米全体の食味向上を目指す「特A奪還キャラバン(研修会)」を県内各地で開催しました。

開催地の一つとなった気仙沼・南三陸エリアにおいては、平成29年7月12日に、本吉公民館において「米の食味レベルアップ研修会」という名称で開催し、生産者・関係機関あわせて約40名が出席しました。

研修会では古川農業試験場から、食味向上のための基本技術について説明したほか、「南三陸米ひとめぼれ」と新品種「だて正夢」の試食による食味官能試験の体験を行いました。また、研修会の後には「だて正夢」の栽培水田へ移動し、実際の生育の様子を見学しました。

参加者からは、稲の生育状態の見極め方や新品種の特徴について質問があり、栽培技術と食味の関係について理解を深めることができました。



説明に聞き入る参加者



現地見学の様子

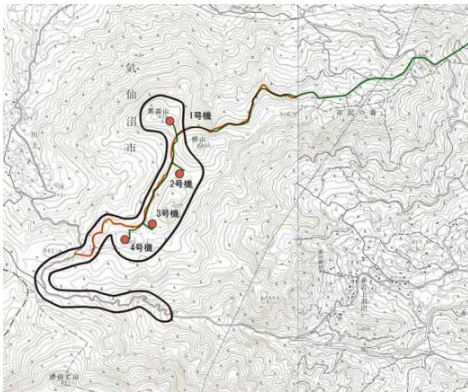
「気仙沼市再生可能エネルギー導入プロジェクト」始動！！ (気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

本事業は気仙沼市の復興計画プロジェクト「気仙沼市再生可能エネルギー導入プロジェクト」に選定されており、平成27年10月に着工し平成29年6月に完成しました。

事業実施区域は、気仙沼市の西部、標高 600～630m程度の山地に設置されたもので、風況条件と環境に配慮し、県内で初めて稼働した風力発電です。

この区域は、「宮城県立自然公園気仙沼」内に位置し、近くにはヤマツツジで有名な徳仙丈山や気仙沼市民の森などがあり、今後は気仙沼市のエネルギー供給のほか、観光資源としても期待されているところです。

- 【事業の概要】
- 事業主体名:株式会社気仙沼市民の森風力発電所
 - 事業名:気仙沼市民の森風力発電事業
 - 事業箇所:気仙沼市川上 地内
 - 事業規模:7,480kw(4基の合計数値)※年間一般家庭約 4,000 世帯分を発電



設置区域図



1号機から4号機

清水(1)地区農地海岸復旧工事「L1 堤防」が完成しました (気仙沼地方振興事務所 南三陸支所)

南三陸支所が本吉郡南三陸町志津川権現地内で進めている清水(1)地区農地海岸復旧工事で「L1 堤防」(海岸堤防)が完成しました。清水(しず)地区では、平成23年東北地方太平洋沖地震災害により住家流失を含む被害が著しく、さらに地盤沈下が生じるなど海岸堤防の機能が損なわれており、早急に復旧工事を行う必要がありました。

宮城県は、発生頻度の高い津波(数十年から百数十年に一度程度)への防災対策として主に海岸堤防等の整備を進めています。この目的は、最大限に人命・財産等の防護であり、仮に施設最頂部を超える高い津波が襲来しても、全壊する恐れが低く避難時間の確保が可能な、粘り強い構造の海岸堤防等を設計・採用しています。

(写真右上)海岸側から撮影

(写真右下)内陸側から撮影



新たな青年漁業士が認定されました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

6月20日に、地域漁業のリーダーである「宮城県青年漁業士」の認定証交付式が県庁で開催されました。今年では全体で11名、そのうち気仙沼・南三陸管内では、大谷本吉支所所属1名、志津川支所所属4名、合計5名の新たな宮城県青年漁業士が誕生しました。

今後、地域の漁業を担う新たな漁業士の皆さんの更なる活躍が期待されます。



認定証交付式の様子

宮城県漁業士会北部支部通常総会・研修会が開催されました (気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

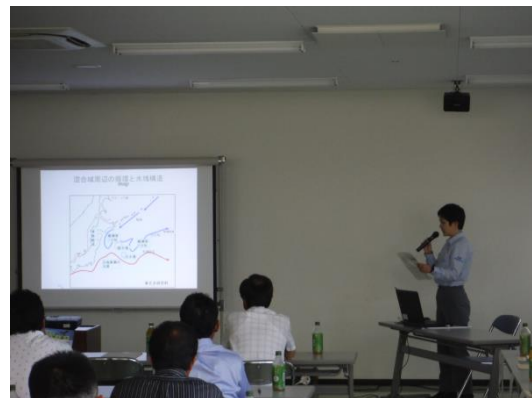
7月5日に気仙沼合同庁舎において「宮城県漁業士会北部支部平成29年度通常総会及び第1回研修会」が開催されました。

総会では、平成28年度事業報告や平成29年度事業計画等の議題について審議し、研修会では、近年の海況変化等漁業者の興味・関心の高いテーマでもある、「近年の海況と漁業生産への影響」と題して、水産技術総合センター環境資源部職員による講演が行われました。

講演終了後、漁業者から海水温の上昇による影響や高水温に適した養殖種の検討等について質問が出されるなど、活発な意見交換が行われました。



総会の様子



研修会の様子

岩手県沿岸広域振興局との意見交換会を開催しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

7月20日に岩手県沿岸広域振興局との意見交換会を、陸前高田市、大船渡市内において開催しました。

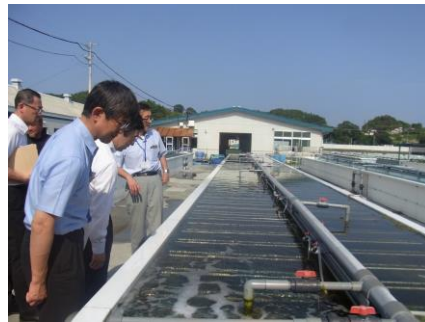
この意見交換会は、宮城・岩手の県境に接し、地理的状況や産業形態が類似する沿岸広域振興局と当所が、共通する課題等について情報交換や意見交換を行い、課題解決の一助とすることを目的に平成14年度から開催しているものです。

意見交換に先立ち、高田松原再生に向けた取組や陸前高田市小友地区水田の復旧状況、アワビの種苗生産などを視察しました。その後、両地域で展開している取り組みについて、特に園芸特産重点施策や秋サケの種卵確保、コミュニティ支援といった幅広い分野にわたって意見交換を行いました。

次回は、気仙沼管内において意見交換会を開催することとし、今後も沿岸広域振興局と当事務所が連携を深めていくことにより、両地域のさらなる発展につなげることを確認しました。



陸前高田市小友地区復旧水田の視察



アワビの種苗生産の視察

サンオーレそではまが7年振りに復活しました (気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

東日本大震災により被災し、閉鎖されていた南三陸町志津川の海水浴場「サンオーレそではま」が、7月15日に再開しました。

「サンオーレそではま」は、平成11年7月に完成した人工海水浴場です。サンオーレという名前は、砂浜の全長3(サン)0(オー)0(レ)mに由来しています。穏やかな波と白く綺麗な砂浜で、年間約4万人以上の方が訪れる夏の人気スポットでした。しかし、東日本大震災により砂の流出や地盤沈下など、壊滅的な被害を受けました。その後、防潮堤のかさ上げなど、復旧工事の進捗により、約7年ぶりに営業再開となりました。

営業再開当日は、晴天にもめぐまれ、子ども達は海に入ったり波打ち際で砂遊びをしたり、多くの親子連れで賑わいました。



海水浴場全景



安全祈願祭の様子



海開きの様子